

⑤異文化理解

◆現状と課題

ネット社会の進展により世界の動きが瞬時に分かるようになった現在は、世界の様々な国との関わりを抜きにして私たちの生活を考えることはできなくなっています。能代市の外国人登録者数は、371人(平成19年12月末現在)であり、国籍は中国、フィリピン、韓国等13カ国に及んでいます。

外国籍の市民にとって暮らしやすいまちは、市民にとっても暮らしやすい活気にあふれるまちです。そうしたまちを目指して、市民学校や国際理解講座、様々な国の料理教室、日本語教室等の事業を実施していますが、異文化理解に向けた取り組みは充分とは言えません。

能代市の豊かな自然や産業、伝統文化などと直接ふれあい、地域の文化の素晴らしさを見直し、守っていくと同時に、体験活動を通じて文化に共感し、自分が大切な存在であること、社会の一員であることを実感し、思いやりの心や規範意識を育むことができる取り組みが必要です。

異文化に対し理解を深めるためには、自分と違う国籍の人、社会、異文化に対して関心を高めることが大切と考えます。

重点目標	施策の方向性
1. 地域に根ざした異文化理解の施策の充実を図る。	地域に住む外国人や外国で暮らしたことのある人など、地域の人材の発掘に努める。
	A L T、外国籍市民の協力を得、異文化理解を深める事業の推進に努める。
2. 情報提供の充実や相談体制、民間団体等の連携の強化を図る。	多言語による情報提供、相談体制の強化に努める。
	学校や団体等と異文化交流事業での連携に努める。
	外国籍市民をサポートするボランティア団体の育成に努める。
3. 自然、伝統文化、特産物などの地域資源を活かした体験活動の推進を図る。	お互いの理解を深めるため、体験 ・ 交流活動の機会の提供に努める。